

無名塾公演「わが町」 事前ナビゲートトークショー

能登演劇堂で、10月31日から4日間にわたり上演される無名塾の「わが町」。この公演を「10倍楽しむ」をキーワードに、赤羽秀之さんと中山研さんによるトークショーが開催されました。



あらまし

舞台は、1900年代初頭のアメリカ東部。ニューヨークの少し北にある小さな田舎町。ギブス一家とウェップ一家、そして両家で結びつく一組のカップルを軸に、3幕構成で描かれています。作品の進行役である『舞台監督』がナビゲートしながら、淡々と時間軸に沿って物語を追っていきます。

キャストが語る本作の見どころ

中山 第1幕では、この町の日常が繰り返されます。町医者のギブス医師と夫人の静かな朝と、子どもたちとの慌ただしい時間。もう一つの家族であるウェップ家の夫人との井戸端会議ならぬガールズトークなどが展開されます。この会話の中に、第3幕の終わりでちよつとしんみりできるエピソードがあるので、聞き逃さないようにしてください。

第2幕は恋愛と結婚。両家の長男と長女はずっと隣同士で育ってきた幼なじみで、ある日、互いに恋をしていることに気が

付きます。見ている方が気恥ずかしくなるような、けれども応援したくなるようなシーンが演じられます。温かく応援してほしいです。

第3幕は、結婚したエミリーという女性がある劇的な状況の変化を迎え「生きる」ということは、特別なことがあるから特別なのではない。何でもないようなことの積み重ねが特別なのだ」と気付く瞬間を迎えます。

特別なことが起きたとしても、それはその人にとっての特別で、世の中全体で見ると「よくある事」でも、それが積み重なっていくことが人生で、その一つ一つの人生がその人にとって特別だということを伝えられればと思います。

赤羽 この作品は何も起らないドラマです。極悪非道の人が出てきて成敗する話でもなければ、不幸な人をみんなで助けてあげようという話でもありません。架空の片田舎で生まれ育った人が、そこで仕事をして恋をして結婚をして、そして年老いていつか死んでいきます。初めて見る人には「何が面白いの」と思われてしまうかもしれませんが、不思議なこ

とにこの作品は世界各国で何度も上演されています。それは、この作品がとても簡素で、その町に合うようにして手直しできるから。そうして現在に至るまで、あちこちで上演回数を重ねている稀有な作品です。

この作品の素晴らしさは「あの時は幸せだった。恵まれていた。……その時は気付かなかったけれど」ということを気付かせてくれることです。

震災の時は、能登で私たちにできる限りのことをお手伝いさせていただきましたが、当たり前だと思っていたことが当たり前ではないと気付かされました。

全編を通して見ると、ポイントとは違うかもしれませんが、誰の心にも刺さるものが必ずある話です。芝居の入門編として、初めて見る人でも十分に理解していただける難しくない芝居です。お芝居好きの人には「何度見ても良いね」と言っていただけの作品です。ぜひ能登演劇堂までお越しただければと思います。



ギブス医師役・赤羽秀之さん



舞台監督役・中山研さん

能登・七尾の皆さんへ

赤羽 演劇のまちとして一から始めて、さまざまな歩みを進めてこられました。仲代さんが育んできたこの演劇の文化を、私たちが一緒に七尾から能登全域に広めていけたら素敵だと思います。皆さん頑張ってください。

中山 能登演劇堂で芝居をやるときは、自分の日常を全て切り捨てて一日中芝居のことだけを考えることができます。役者として、これほど贅沢な時間の過ごし方はありません。こんな贅沢な時間を私たちに提供してくれる皆さんの底力に感謝しています。私たちが芝居をやることで、皆さんの何かになることができると思っています。

無名塾との交流会

「わが町」のキャストの皆さんと、交流会を開催します。

これまでの無名塾公演を振り返りながら、楽しいひとときを過ごしませんか？

■日時 11月2日（月）終演後17時～

■会場 所 能登演劇堂 展示ホール

■会費 3,000円（税込）

■定員 先着100人

■申込期限 10月20日（火）

■申込方法 電話または専用フォームから

能登演劇堂 ☎66-23323



※公演情報は18ページのイベント情報をご確認ください。